

在宅医療連携拠点事業成果報告

拠点事業者名：社会医療法人長崎記念病院1 地域の在宅医療・介護が抱える課題と拠点の
取り組み方針について

課題：高齢化・人員不足

医療・介護・福祉の連携不足

人員（人材）・インフラ不足

取り組み：各施設間の「顔の見える」連携の
場の提供当院医療従事者（セラピスト・薬剤師
等）による多施設への研修

2 拠点事業の立ち上げについて

平成 23 年度より事業を開始

3 拠点事業での取り組みについて

(1) 地域の医療・福祉資源の把握及び活用

インフラの把握実施・マップ化

(2) 会議の開催（地域ケア会議等への医療関係者
の参加の仲介を含む。）

(3) 研修の実施

市医師会・県薬剤師会と協力し、当院で南
西部地域の調剤薬局を対象に「あじさいネ
ット」の説明会・研修会を実施(4) 24 時間 365 日の在宅医療・介護提供体制の
構築

365 時間・24 時間の救急患者受入体制

(5) 地域包括支援センター・ケアマネジャーを
対象にした支援の実施

日常業務の連携で実施

(6) 効率的な情報共有のための取組（地域連携
パスの作成の取組、地域の在宅医療・介護関係
者の連絡様式・方法の統一など）地域の調剤薬局対象の「あじさいネット」説
明会・認定研修会の開催

(7) 地域住民への普及・啓発

地域の老人会を対象に薬剤師が薬剤服用
の勉強会を実施

(8) 災害発生時の対応策

特筆なし

4 特に独創的だと思う取り組み

「あじさいネット」説明会・研修会
コメディカルによる外部研修施設への
出張研修救急医療機関としての 365 日 24 時間体制で
の緊急時受入体制5 地域の在宅医療・介護連携に最も効果があっ
た取り組み

協議会等、多職種が参加する場の提供

6 苦労した点、うまくいかなかった点

外部との連携は強化できたが、当院職員全体
に事業への取組みの意義を浸透できなかった。7 これから在宅医療・介護連携に取り組む拠点
に対するアドバイス

「顔の見える」連携構築が大事。

8 最後に

地域の中核病院として、厚労省の事業がある
にもないにも関わらず対応していかなけれ
ばならない問題。